

《優秀賞》

「自律への一步」

岩代中学校 一年 佐藤 和奏

私の住む二本松は、江戸時代まで丹羽氏が治めていた。城主が住んでいた霞ヶ城の跡地に行くと、「戒石銘」と呼ばれる大きな石を見ることが出来る。この石をよく見ると、文字が刻まれていた。

私は、中学校の授業で、初めてこの戒石銘について調べた。「この漢字は一体何だろう。なぜ、こんなところに文字が刻まれているのだろう。」と不思議でたまらなかった。授業で戒石銘について書かれた資料を読んでもみると、五代藩主丹羽高寛の時代に作られた、藩士の戒めとするための自然石に刻ませた教えであることが分かった。

医師に刻まれている教え、それは「お前（武士）の俸給（給料）

は、民があぶらして働いた賜物から得ているのである。お前は、民に対して感謝し、いたわらなければならぬ。この気持ちを忘れて弱い民たちを虐げると、きつと天罰があるだろう。」と書いてあった。

江戸時代は、厳しい身分制度があつて、武士の権力が大変強かつたと学んだことがある。その武士たちに対して、このような戒めを出したのだ。そこには、身分に関係なく、人に感謝しなさい、という教えが刻まれているということが分かってきた。この江戸時代に刻

まれていたという感謝することの大切さを示した石。私は、「あれ、このことは、現代の私たちにも言えることではないか。」と思えてきたのだ。

感謝の心。私は毎日、感謝して生活してきただろうか。毎日の生活を支えてくれる家族、学校生活を支えてくれる先生方、そして、友だち。私の生活の中ではあまり目には見えにくいけれど、大切な地域の人たち。私は、感謝の気持ちを持ち、そしてその感謝の気持ちを周りの人たちに伝えてきただろうか。答えは、否。どこか、「やってもらってあたり前」という、まだまだ甘えた気持ちがあるということに気づいた。それに、私は、誰かに何か細かく言われると、「うるさいな。」という気持ちの方が先行してしまい、いら立ちの方が勝ってしまう。思春期だから仕方がない。でもそれで済ませてしまっただけにいいのだろうか。これはきつと、私だけに言えることではないはずだ。以前、学校でSNSの使い方について、家族など、様々な人とディスカッションをする機会があった。この時、大人たちから言われたことは、「タブレットを使ってもいいけれど、やるべきことはしっかりとやりなさい。」ということだった。私は、なんだかちよつと頭にきた。私は、タブレットを使用するときは、ちゃんと時間を守っているではないか。何が、「やるべきことをしっかりとしなさい。」なのか。そこに来ていた大学の先生が言っていたことは、「自分で正しいと思ったことを判断して、自立した人になってほしい。」

ということだった。私は、その話を聞きながら、「しっかりやりなさい。」という言葉の意味が、少し分かった気がした。言われたことだけをやるのではなく、自分で正しいと思うことをきちんと判断して、行動すること。おごり高ぶらないこと。

この時の経験は、感謝の気持ちを表す、ということにつながる気がする。私が自律して、周りの様子をよく見て、正しい判断をすることができれば、感謝の気持ちをもつこともつことができるのではない。それは、決して簡単なことではない。しかし頑張ってみる価値のあることだ。

現代は、多様性の時代である。様々な考え方がいる。でも人に感謝しながら生きていくということは、昔だけでなく今も大切だということに変わりはない。感謝するということは、簡単そうで実はとても難しい。自分と違う考えの人でも良さを見つけていくことが求められる。戒石銘について学び、考えたことが、これからの自分の生活を様々な面から見直すきっかけとなった。私はまだ甘えた気持ちがあるが、今日から自律への一歩をしっかりと踏み出していききたい。